

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 3 区分
【発行日】平成 21 年 11 月 26 日 (2009.11.26)

【公開番号】特開 2006-229663 (P2006-229663A)
【公開日】平成 18 年 8 月 31 日 (2006.8.31)
【年通号数】公開・登録公報 2006-034
【出願番号】特願 2005-41852 (P2005-41852)
【国際特許分類】

H 0 4 N 5/225 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 5/225 A

【手続補正書】
【提出日】平成 21 年 10 月 13 日 (2009.10.13)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 0 2
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0 0 0 2】

従来、背景などを含む全体画像とその一部を拡大した二つの画像を一つの画面内に表示する技術が開示されている（例えば特許文献 1 参照）。

【特許文献 1】特開 2 0 0 3 - 2 6 4 7 6 4 号公報

【手続補正 2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 0 3
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0 0 0 3】

しかしながら、従来技術では、一旦記録した画像の再生時に全体画像の一部を拡大表示する或いは、全体画像と一部拡大画像を同時に記録するようにしているが、既に撮影された画像であるために、ピントが合っているのかいないのか、あるいは撮影に成功したのか失敗したのかは撮影時には分からないという問題があった。そこで、ユーザ操作により、表示部に表示している撮影画像データを拡大する機能を有するものもあるが、操作が煩雑になり、迅速にピントが合っているか、撮影に失敗したのかを判断するのに時間がかかるという問題があった。